




村山市 **小中 未来 スクール** 構想会議 及び「地域説明会」 報告書

令和5年（2023年）3月

 未来の「ひと・まち・しあわせ」を育む
村山市教育委員会

もくじ

1. はじめに
2. 構想会議委員の構成と会議概要
 - (1) 委員の構成
 - (2) 各会議の概要
3. 『村山市小中未来スクール構想』の検討内容
 - (1) こんなことができる学校に
 - (2) 地域とともにある学校づくり
 - (3) 考えられる学校の在り方
4. 地域説明会の状況
 - (1) 開催日時と会場等
 - (2) 質疑応答の主な意見等
 - (3) 地域ごとの状況
 - (4) 参加者アンケートの概要
 - (5) 地域説明会の考察
5. おわりに

1. はじめに

令和3年2月の「将来の小学校の在り方に関する検討委員会」（以下、検討委員会）の答申を受け、「統合計画策定」の前に村山市が理想とする小中学校のあり方、理想の学校像について自由に議論し「次期統合計画」の基本的な指針やその構想となるような方向性を見出すために「村山市小中未来スクール構想会議」（以下、構想会議）を設置しました。

「検討委員会」より村山市立小学校における適正規模及び適正配置について4つの骨子からなる答申がなされました。

①小学校の適正配置等について

楯岡中学校区、葉山中学校区でそれぞれ1校の計2校（東西2校）に統合することが望ましい

②統合計画の策定について

統合計画策定委員会を設置し検討すること

③統合の方法・時期

同一時期にこだわらず、地域や学区民の合意が得られた地域から統合を進めるべき

④小学校教育のより一層の充実のために

ワーキンググループの設置と統合計画の推進

特に4つ目の答申骨子に、『新しい学校への統合の目的は、村山市の小学校教育のより一層の充実にある』ということが答申されています。

このことを踏まえ「構想会議」では5回の会議を重ね、子供たちに必要とされる力や教育環境、学校制度の在り方など「理想とする学校像」について委員の皆様から多くのご意見をいただき検討してまいりました。また、本会議委員である山形大学副学長の出口毅教授よりご講話をいただいたり、小中一貫校の先進地視察に行ったりなどして「未来スクール構想」を作成しました。

また、11月から地域説明会を市内8地域で開催し、検討委員会の答申と未来スクール構想の概要をご説明し、地域の皆様のご理解が得られるよう努めてまいりました。

「構想会議」概要と『村山市小中未来スクール構想』及び、地域説明会質疑応答の概要を、ここに報告いたします。

2. 構想会議委員の構成と会議概要

(1) 委員の構成

No.	区 分	氏 名	備 考
1	学識経験者	出口 毅	山形大学理事（兼）副学長 （特別委員・アドバイザー）
2	教育委員会	大内 敏彦	村山市教育委員会教育長
3	小学校	井上 敏春	村山市立楯岡小学校長
4	中学校	宗片 史樹	村山市立葉山中学校長
5	幼保施設	井上 信也	村山市幼児教育・保育施設連絡協議会会長 （村山市はやま認定こども園 園長）
6	教育委員会が必要と認める者	佐藤 洋介	村山市地域おこし協力隊（元政策推進課長）
7	教育委員会が必要と認める者	大山 裕貴	村山市に移住（名古屋出身）村山市白鳥在住
8	教育委員会が必要と認める者	笹原 美智子	地域専門員（大倉地域市民センター） 小学校の在り方検討委員（公募）

事務担当

No.	区 分	氏 名	備 考
1	事務局	井澤 豊隆	教育委員会学校教育課長
2		奥山 竜一	教育委員会教育指導室長
3		奥山 寛幸	教育委員会学校教育課長補佐（兼）指導室長補佐
4		大沼 直樹	教育委員会学校教育課指導主査（兼）指導主事
5		森谷 洋子	教育委員会学校教育課指導係長（兼）指導主事
6		工藤 幸吉	教育活動専門員
7		永瀬アツ子	教育委員会学校教育課庶務係長
8		坂木 宥也	教育委員会学校教育課主事補

(2) 会議の概要

第1回：令和4年2月21日（月）午後4時30分～ 市役所・第1会議室

- ①説明 「村山市立小学校の適正配置に関する計画について」 事務局
「小中学校教育の現状と課題について」 事務局

②議事 「村山市の小中学校教育の充実に向けて」

③委員の主な意見

- ・ 創造的な考え方ができる教育が必要となる。上位層を伸ばすことも行いたい。
- ・ 論理的に考えたり想像力を働かせたり、考えるための武器をどうやって持たせるかが大事である。
- ・ 「子供たちがなぜ村山市で学ぶのか」という地域の価値、創生を市全体で考えていくことが必要である。
- ・ 1学級の児童数は25人前後がいいのではないかと（適正規模）という報告がある（国立教育政策研究所）
- ・ 理想を語りながらも現実を直視し、出来るものにはいち早く取り組み、果敢に挑戦して欲しい。
- ・ 理想像を議論することはすごくいい。総力戦で考えていくしかない。
- ・ 伸びたい子どもを伸ばしてあげられる学校にしてほしい。心を伸ばすには芸術も必要である。

第2回：令和4年5月26日（木）午後3時～ 視聴覚教育センター第2学習室

- ①議事 「これからの時代を生きる村山市の子供たちに必要な力は何か」
「村山市の強みを生かしてどのような教育ができるか」

②委員の主な意見

- ・ 幼稚園と小・中学校のよさを生かすダイナミックな教育課程編成や学年編成を考えて理想の教育ができやすいベースをつくっていくことが大事ではないか。
- ・ 自ら課題を見つけ、自ら学び自ら考え判断して行動し、それぞれが思い描く幸せを実現することが、村山市の子供たちにもすごく重要だと思う。
- ・ 村山市では、食に関してクォリティーの高いものが目の前にある。農に限らずせつかく目の前にある資源を生かしていくべきだと思う。
- ・ 学校がいいからと人が移り住んでくるような魅力をしっかり発信し、村山市だからできることをする必要があると思う。
- ・ 人間形成のうえであいさつはとても大事だと思う。芸術も心の癒しというか教育につながるものと思う。
- ・ 子供が自信をもって村山市の魅力を外に自慢できる環境を作ることが大人の役目だと思う。

- ・ これまでの教科教育をベースにしながら新しい教育に見合った教育に変えていくという作業も必要ではないか。先を見据えて再構築していく視点がないと魅力は出てこないのので、「一歩先を行くところがったところ」を創っていくことをぜひ考えていってほしい。

第3回：令和4年6月29日（水）視察研修

- ①視察 「戸沢村立戸沢学園」 午前10時～
「新庄市立萩野学園」 午後1時50分～

②委員の主な感想

- ・ 高学年へ教科担任制で授業を行うなど、小中一貫して資質や能力を育てることができる。
- ・ 義務教育学校制をとることによって生まれる教員の人的リソースの余裕を、教育の充実に活用している。
- ・ 学力向上策の一つとして、9年間のスパンで自学力向上のスキルアップをシステムとして機能させている。
- ・ 9年生のリーダー育成だけでなく、4－3－2ブロック制を生かして4年生と7年生のリーダーシップ育成にも取り組んでいる。
- ・ 小学校の卒業式がないのは親として残念な気持ちがある。
- ・ 義務教育学校や小中一貫校のシステムで指導のしやすさなどどういうものか、正直よく分からなかったところである。
- ・ 合併前の各学校の特色ある取り組みをなるべく廃止せず存続している一方で、PTA活動を大胆に見直している。
- ・ 通学の時間が30分以内であり、スクールバス9台が稼働している。
- ・ 隣接して幼児施設があるので、幼保小の連携がとりやすい。各地区に共育活動団体もあり、統合後も子供が大人と活動する姿がある。

第4回：令和4年9月9日（木）15：00 農村環境改善センター小会議室

- ①説明 「村山市未来スクール構想」の現在までのまとめ 事務局

- ②議事 「村山市の特色ある教育活動について」
「教育活動を展開するための方策について」

③委員の主な意見

- ・ 小学校が統合すると人口が減少していくのではないかと心配があり、これを機に大きい学校に転校しようということを止めるためには大きい目玉があって、ここはいいなと思ってもらえる学校をつくっていく必要がある。
- ・ 単学級の小さい学校はいいように思えるが、教員採用でどんどん若い先生が入ってきているので、若い教師が単学級を一人で受け持つのはこれからしんどくなると思われる。集団で先生たちが指導や評価をしていく体制に変えていかなければいけないと思う。

- ・ 小中の連続性はどのような形であれ今から考えていかないと、小学校の教育が中学校で取り戻せないという現実があるので、9年間で考える必要がある。
- ・ 教育委員会の事業評価で学校が地域のために何ができるかという発想が大事であるというコメントをいただいた。統合を見据えて地域のために今の学校が統合までやれることを校長先生方をお願いしながら大事にしていきたい。
- ・ 学校から帰ったらどうするかということで、福祉施設や体育施設などいろいろな施設を学校の周辺に一極集中で整えていくのか、学校が終わったら帰してあとは地域に任せて地域の中で活動できるような分署的なものにしていくのか、どっちがいいのか分からない。
- ・ 幼稚園・保育園で英語をやってもらって子供たちがすごく喜んでいるし、いろいろな活動を繰り返すとだんだんと言っていることが分かってくる。村山独自の幼保小の新カリキュラムができるのではないかと感じる。
- ・ 統合を考えていくうえで、何かしら子供たちの意見を取り入れることを考えてほしい。
- ・ 村山市が大切にしてきたもの、育ててきたこと、培ってきたものは学校が替わっても教育に活かされていくということがしっかり伝わっていかなければいけないと思う。

第5回：令和4年10月18日（火）15：00 市役所全員協議会室

①講話 山形大学 理事・副学長 出口 毅 氏

『これからの理想の学校について』

○少人数による理想の学校

- ・ 学級、学年単位から学校へ、大きな教育活動は市レベルで
- ・ 多面的な児童生徒理解や評価
- ・ 授業の質向上へ
- ・ 主体性、個性重視

○特に重視する教科

- ・ 算数・数学：数理・データサイエンス教育の基礎（日常と結びつけて）
プログラミング的思考の重視
- ・ 理 科 ：問題解決の過程
- ・ 外国語 ：小中を通した指導 ※もちろん国語も大事

○チーム学校の実現

- ・ 担任ガチャの克服
- ・ 学校目標における資質・能力育成の明確化 → 付いているかどうか
- ・ 子ども自らが動く学校
- ・ 教師の個性も生かす学校

○新しい教育の実現

- ・ ICT、デジタルは当たり前
- ・ 学び直しができる学校
- ・ 評価の共有（学びのプランー見通しー振り返り）
教師と子供で共有する仕組み
- ・ 学校全体を俯瞰できることの重要性
- ・ 教師も学び続ける（働き方改革の目的）

②説明 「検討委員会答申と村山市未来スクール構想」地域説明会資料

③委員の主な意見

- ・ 教科学習で培った問題解決力を自由に使える本当の力にするには、総合的な学習もとても大事だと思うので、地域の良さを今のうちから豊富にして、地域での探究学習に力を入れる学校にしていくというような理想があるといいのではないかな。
- ・ 学級一学校一市という大きい単位で行事をしていくのも素敵だと思うし、大人が面白いと思ったことを実践していくことで、子どもが個性や主体性を学べるのではないかなとも思うので、村山大運動会というものを市全体の行事として開催出来たら面白いのではないかな。
- ・ 情報インフラは大変な速度で変わっていくので、教育現場の大人たちが情報技術の進化にある程度のレベルについていかないと、現場に実践レベルで ICT を導入するのはどんどん難しくなっていくのではないかな。
- ・ 学校がなくなることで地域がなくなったらどうするというレベルの話ではなく、村山市全体を存続させていくために統合が必要であるということの理由を明確にすることで地域の人たちの考え方も変わっていくのではないかなと思う。村山市の学校に通わせたいから、村山市に住もうと思ってもらえる学校を作るというビジョンも必要なのではないかな。
- ・ 英語は読みや書きの基本的な知識だけでなく、知識を応用したコミュニケーション能力を高めるためにも 4 技能を総合的に伸ばしていき GTEC で点数がとれる力を身に着けるといような明確な目標があるといいのではないかな。
- ・ 10 年先までの計画を提示して説明するというのは現実的であり、とても明確でいい。使わなくなった学校はエリアスクールといった形で残し、総合的な学習のこの活動はこの地域で行うというように、カリキュラムの中に学習するエリアを決めてしまってもいいのではないかなと思う。子供たちが学んでいくということを地域の方にも説明し地域学習をカリキュラムとして作ることによって、子どもたちが地域にちゃんと帰ってくるということを伝えてもいいのかなと思う。

3. 『村山市小中未来スクール構想』の検討内容

小中未来スクール構想会議 村山市の小中学校の理想像の検討		
No.	検討の視点	内容（出された意見等）
1	これからの社会変化に 十分対応できる 「目指す学校像」	○社会の変化に（国＝グローバル化、多様化、情報化、技術革新…） ○1クラス25人前後の学校（小学校の集団サイズ＞中学校の集団サイズ） ○クオリティの高い周辺環境を備えた学校 ○多様な人材が関わる学校 ○いろんな組織とつながり、魅力にあふれる学校 ○小中連携・中中連携が可能な学校 ○世代間交流が可能 ○「地域と国際」の両面を持った学校 ◎ 一步先をいく、他にない特徴・特質を持った学校 ◎「ふるさと学習」が充実した学校（地域の宝物の活用） ◎地域での「体験活動」が9年間繰り返しできる仕組みのある学校
2	子どもたちが備えるべき 資質能力が存分に学べる 「目指す子ども像」	◇徳育・知育・体育…（チャレンジ力・熱中経験）◎基礎学力の定着 ○世界的な基準による学力・各種能力等（①新たな価値を創造する力 ② 対立やジレンマを克服する力 ③責任ある行動をとる力）◎ICT活用力 ◎ 英語力/コミュニケーション力 ◎主体性 ◎リーダーシップ ◎ 豊かな創造力 ◎想像力豊かな人間性
3	最適な学校制度・ 学校間のつながり （東・西）（小・中）	①従来の小学校・中学校制度（小中連携） ②小中一貫型小学校・中学校 ③義務教育学校（9年間一つの学校） 【小中一貫カリキュラム/発達順応型4・3・2制/学校独自教科設定等】
4	幼児教育の充実 （幼保小中連携、学童保育等）	◎ しっかりした幼保小中の連携 （教育システムの連携/教員間の連携） ○十分な「遊び」が可能な体制 ○学童保育等の整備・継続
5	その他 （地域を大切にしたい学校 運営等）	○芸術 ○家庭の食事 ○読書シティ（充実した読書環境） ◎ 特徴のある教育プログラム （共通プログラム・特色あるプログラム…） ◎整えるべき教育環境 ◎ 各地域を大切にしたい学校運営 （ex.少人数指導体制、更なるICT環境整備、コミュニティスクール化等）

(1)こんなことができる学校に

時空を超えた「学び」「つながり」そして「感動」

～一步先を行く、他にない特徴を持った学校～

これから子供たちが生きていく未来は、インターネットで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され新たな価値が生まれる社会、少子高齢化や過疎化などの課題を技術革新により克服する社会、ロボットなどの支援により人の可能性が広がる社会になると予測されています。

タイトルに掲げた『時空を超えた「学び」「つながり」そして「感動』は、こうした社会を一人一人が力強く切り拓き、自己実現していくために大切にしたい理念を表しています。これまでの価値ある学びを新たな知識や技術とつなげ、人と人がつながり、地域と地域、世界にまでつながっていく感動。感動は人が生きていくうえで大きなエネルギーになっていきます。

以下、構想会議委員の皆さんの意見等を参考に、村山市が目指す理想の学校像について「学び」「交流」「体験」の3つの観点から述べていきます。

村山市小中未来スクール構想 【こんなことができる学校に】



①どこまでもつながる楽しい「学び」

身の回りにある豊かな自然や生活と学びがつながり、学ぶこと自体に楽しさを感じられるようになることが大切です。村山市にはその環境が十分整っています。強みである英語教育環境や ICT 環境の充実、基礎学力の定着などを土台として、様々な知識や技能が互いにつながり合い実際に未来の諸問題を解決できるような「学び」を目指します。

ア、ピカイチ英語力

【こんなことができる子に】

多様な文化をもつ人々とも臆することなく、グローバルな視野をもって英語でコミュニケーションを楽しむことができる子供

【生かしたい今までの強み】



- 幼稚園・保育園に派遣された ALT と、英語で表現することを楽しんでいる。
- 小・中学校で英語技能の CAN-DO リストに沿って学んでいる。
- 学校で学んだことを活かし、英語で自分のことを発信したり、伝え合うコミュニケーション力を高めたりする場がある。(EX, 英語ビブリオバトル、英語ディベート等)
- 英語検定受験料助成を生かし、資格取得者が増えている。

イ、一歩先行く ICT 活用

【こんなことができる子に】

デジタル・アナログ両方のよさが分かり、子供が主人公となる学びの中で ICT 使いこなして交流し、できた・分かったを実感し生き生きと学習する子供

【生かしたい今までの強み】



- Google workspace の活用が進み、授業における使用場面が検討されている。
- クラウド型管理システムで、いつでもどこでも ICT を使う環境が整っている。
- ICT の CAN - DO リストに沿って基本的な操作技能を確実に身に付けている。
- 先進事例を学び、学校生活で ICT を使った問題解決場面を数多く経験している。
- 使用方法やトラブル等に対応できる ICT 支援員がサポートしている。

ウ、学力ナンバーワン

【こんなことができる子に】

好奇心から湧き出る行動力で仲間とかかわりながら自分の考えを深め、難しい問題場面においてもねばり強く自分で解決する方法を見つけ出す子供

【生かしたい今までの強み】



- 全国学力調査の全教科で小学校・中学校ともに全国平均を上回っている。
- 学ぶ土台となる基礎基本の「読み書き計算力の定着」と「良好な学級経営」で児童の学びの場を提供している。
- 算数・数学を核として、教師の指導力と児童の学習力を向上させるオリジナル指導プランを提供している。
- 指導内容を定着させるための指導体制と人的支援が充実させている。

【「学び」に関して参考にした委員の主な意見】

- ・ 英語が読めないと情報量が圧倒的に少なくなり、外国の方とのコミュニケーションが取れないと学びの機会が少なくなる。仕事についてからも国際分野の仕事には意識が向かなくなるので英語はすごく重要であると感じた。
- ・ あそこの学校に行けば英語が身に付くということに特化して、そこがいいとなれば移り住んでくるような学校づくりをすることが先進的になってくる。
- ・ 今年度から幼稚園・保育園に ALT から来てもらって英語遊びができるようになった。遊びを通して耳が鍛えられれば本当にありがたい。
- ・ 幼稚園・保育園の遊びを通して培った自分の思いや願い、ワクワク感を小学校の学びにつなげてほしい
- ・ これまでの教科教育をベースにしながら新しい教育に見合った教育に変えていくという作業も必要ではないか。先を見据えて再構築していく視点がないと魅力は出てこないのので、「一歩先を行くとがったところ」を創っていくことをぜひ考えていってほしい。

- ・ これから自分で考え判断し表現する力が大切になるが、それができるための武器を身に付けさせたい
- ・ 育まれた主体性を発揮できるような場をたくさん設けて、その力を実践する経験をいっぱいさせてあげたい

②どこまでも広がるワクワク「交流」

これからの未来を生きていくうえで、誰かとつながろうとする意志やその時の充実感、つながるための術は極めて重要になってきます。人と人がつながる喜びや共に創り上げる楽しさが遊びや熱中して活動する中で生まれ、離れた人や場所ともつながることができるSNSなども活用し、人がつながり広がることは1+1が3にも5にも10にもなるという可能性や好奇心をもつことができるワクワクするような「交流」を目指します。

ア、ゆたかで多様な地域内交流

【こんなことができる子に】

仲間との遊びや異年齢集団での活動に熱中することで好奇心や探求心、思いやりの心が生まれ、やりたいことを見つけ自分で行動を起こすことができる子供

【生かしたい今までの強み】

- 学校ではそれぞれの特色を生かし、縦割り活動などの異年齢集団による自主的で主体的な活動に取り組んでいる。
- 幼稚園・保育園では遊びを通して興味関心や好奇心を育てている。
- 地域内で楽しく豊かに活動している人たちを紹介する。

イ、多チャンネル友好都市交流（国内国外）

【こんなことができる子に】

ブルガリア・カナダバリー市・厚岸町・台東区などの人々と互いの自慢を交流・発信し合い、誇りとするそれぞれが生まれ育った地域の人・自然・文化をリスペクトできる子供

【生かしたい今までの強み】

- 各地域や村山市のよさを知り自慢したくなるような地域学習を、各学校が工夫して展開している。
- ブルガリア・カナダバリー市・厚岸町・台東区などと交流するパイプが整っている。
- ネット環境を含めて交流するための手段が整っている。

ウ、各種協力団体等の連携強化

【こんなことができる子に】

各種協力団体のかっこいい大人や魅力的なグループと交流することで、礼節を大切にし、あこがれをもって未来のなりたい自分・やりたいことをイメージして行動できる子供

【生かしたい今までの強み】

- リンクむらやま、村山産業高校、NPOなどでワクワクする活動の情報提供がなされている。
- 各団体が得意とする活動で学校に協力支援し、様々な活動を展開している。
- 各学校も教育計画に位置付け、児童の発達段階に応じた活動を行っている。

【「交流」に関して参考にした委員の主な意見】

- ・ 村山市はオリンピックのブルガリア招致で地域と世界を非常にうまくつなげたので、これからも時間と場所を超えたオンラインでつながる学びをどんどんやっていけばいい
- ・ 主体性などを考えると遊びも小中だけでなく、幼児教育から考えていく問題だと思う。熱中して何かをやるという経験が自ら何かを始めるきっかけになる
- ・ OECDのエデュケーション2030では「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」がこれからの時代に必要とされ、ウクライナ問題を見ても大切であると感じている
- ・ 人間形成のうえであいさつはとても大事だと思う。芸術も心の癒しというか教育につながるものと思う。
- ・ 子供が自信をもって村山市の魅力を外に自慢できる環境を作ることが大人の役目だと思う。

③どこまでも深まるバラエティーあふれる「体験」

市内各地域には国内にとどまらず国外に向けても誇ることができる豊かな自然・文化・歴史があり、各学校でもその地域の宝物を生かし工夫を凝らして地域学習を行っています。学区が広がることでそれぞれの宝物を大きな視野で結び付けて新たな価値を生み出し、さらに深まりがある教育活動を展開できるバラエティーあふれる「体験」を目指します。

ア、地域の自然・文化の積極的活用

【こんなことができる子に】

地域と地域の宝物をつなげ、五感を使って原風景として心に刻み、成長してからも地元で、そしてたとえ地域から羽ばたいたとしても、一流の地域人としてふるさとに貢献できる子供

【生かしたい今までの強み】

- 村山市には自然・食・文化・歴史などクオリティーが高い教育資源が豊富にある。
- 各地域の方々が協力的で、各地域独自のふるさと学習を展開している。
- 各学校がくふうして地域のよさを再発見する学習を仕組み、自慢できるふるさとにしている。

イ、地域の先生との連携・支援・応援

【こんなことができる子に】

書道や絵画、陶芸、そば打ちの先生などから直接手ほどきを受けることで、創り出す喜びを知り技を高め、将来にわたって心豊かに多彩な活動を楽しむことができる子供

【生かしたい今までの強み】



- 村山市のたくさんの芸術家の先生や職人技をもった先生が、協力的に各学校で子供の指導にあたっている。
- 直接その道のプロから指導してもらうことで、芸術や仕事に対する心もいっしょに伝えてもらっている。

【「体験」に関して参考にした委員の主な意見】

- ・ 子供たちがふるさとで生き続けたいという思いをもてる教育をしてほしい
- ・ 自分の足元を好きになると見えてくるものがある
- ・ ふるさとを出ていくなというのではなく、一回外に出て戻ってこい、戻ってこられるところにしていかなければいけない
- ・ ふるさとでの原体験があるから勉強したいことに対して興味を持てたし、分からないことがあっても自分で調べることができた
- ・ 村山市ではいろいろな作物がとれる。食は人生と必ずセットになるので、クオリティーが高いものが目の前にあることはすごいこと。目の前にある資源を生かしていくべき
- ・ 教科学習で培った問題解決力を自由に使える本当の力にするには、総合的な学習もとても大事だと思うので、地域の良さを今のうちから豊富にして、地域での探究体験に力を入れる学校にしていくというような理想があるといいのではないか
- ・ エリアスクールといった形で、総合的な学習のこの活動はこの地域で行うというようにカリキュラムの中に学習するエリアを決めてもいいのではないか
- ・ 子供がふるさとの環境を愛し、都市部の子に自慢してその子供たちが感動してくれることは、子供たちにとって価値のあること
- ・ ブナ林の地面はふわふわとして気持ちいい、葉っぱが厚く積み重なった中にいる虫がいる土をほじくり返す楽しさは、都会では簡単に味わえない。村山市では、そんなことが簡単にできる
- ・ 小さい頃、どうすれば書道の先生になれるだろうと思っていたことが今、実現していて、芸術も心の癒しや教育につながると思う

(2) 地域とともにある学校づくり

村山市立小中未来スクール構想 【地域とともにある学校づくり】 統合後の地域の在り方

1 各小学校区の価値ある教育資源の再発見、活用、融合

〔表〕各小学校の主な教育資源

(共通＝最上川)

学区名	主な教育資源	学区名	主な教育資源
楯岡小	楯山・合唱・学力・人間教育	大久保小	そば・キャリア教育(外部人材活用)
大倉	居合・フットパス	富本小	森林活用・PTA・自然・スキー
西郷小	河島山(歴史・自然)・アグリランド	戸沢小	歴史・白鳥十郎・方言・ひっぱり
袖崎小	三島通庸・古代地名大室・スキー	富並小	紅花・じゅんさい・鬼甲城

2 学校運営協議会(コミュニティースクール)

○現在全国的に「コミュニティースクール化」の流れ

⇒学校を地域住民が支え、ともに運営する学校(地域との協働による学校運営)

3 各種団体や企業、NPO、そして地域住民とのコラボレーション

○より充実した学校運営をするために、各団体等との連携は必須

(連携したくなるような魅力的な学校づくり)

村山市立小中未来スクール構想 さらに・・・【地域とともにある学校づくり】 構想会議委員より

1 各小学校区の価値ある教育資源の再発見、活用、融合

- ・一人の親として子供が自信をもって村山市の魅力を外に自慢できる環境をつくる
ことが大人の役目だと思っているのでその環境づくりをしていきたい。

2 学校運営協議会(コミュニティースクール)

- ・地域が学校をつくり学校が地域をつくるという関係は、とても大事だと思う。
- ・新しいものをつくるというよりは価値あるものを見直していくという視点がある
と思う。
- ・コミュニティースクールは、これからの学校づくりに必要な考え方だと思う。
市外の教員が市内の学校に赴任して地域の学校をつくると言われても教員は入れ
替わるわけなので、継続して地域の学校にするためには教員の力だけでは無理だと思
う。

3 各種団体や企業、NPOなどとのコラボレーション

- ・「リンクむらやま」はバリバリ働いている有名で個性的な入居者がたくさんいるので、
自分は将来こうなるのではないかという姿を想像できる「カッコいい大人」を見せられる
場所にしたい。
- ・学校だけで教育は終わらないので、いろいろな教育の場をつくって、いろいろな人が
いろいろな魅力もあるので、それをいかにつなげるかがすごく重要だと思う。

(3) 考えられる学校の在り方

村山市小中未来スクール構想 【考えられる学校の在り方】3つの方式				
	Ⅰ.現体制維持		Ⅱ.小中一貫教育	
形態 (方式)	1. (小中連携)		2. 小中一貫型学校	
修業年限	小学校6年/中学校3年		3. 義務教育学校 9年 (前期6年+後期3年等)	
組織	小中に各々の校長 (2人の校長) と教職員組織		小中で1人の校長、 一つの教職員組織	
教育課程	○独自で教育目標 ○小学校の教育課程		○9年間の教育目標 ○9年間のつながりや組み立てに配慮	
特例	原則なし		○一貫教育に必要な独自教科の設定 ○指導内容の中への先送り、小への前倒し	
学年区切り	小6-中3制		4-3-2制 や 5-4制 など可	
施設形態	分離型		分離型 か 一体型 か 隣接型	
想定される 学区	東部学区 (楯岡中学校区)		両学区で可 西部学区 (葉山中学校区)	

①小中一貫教育のメリットとデメリット

主なメリット

ア 中1ギャップの緩和・解消

小学校から中学校への円滑な移行を促すことによって、小中の段差が少なくなることが期待される。

イ 系統性・連続性を意識した教育

小学校と中学校で学ぶ内容の系統性や連続性に配慮して教育カリキュラムを作成したり、指導を行ったりすることが可能になり、理解度の向上が期待できる。

また、教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序や指導内容の工夫が可能になる。

ウ 異学年交流による精神的な発達

小学1年生から中学3年生が異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対するあこがれの気持ちなどの醸成が期待できる。

エ 継続的な指導

9年間継続して生徒に対する指導が行われるので、教員間で情報を共有しやすく、生徒の指導を効果的に行うことができる。

主なデメリット

ア 中学校の新鮮さ

小学校と中学校の段差がなくなりすぎると新鮮さがなくなり、心機一転がんばろうというような学習意欲などを駆り立てることが難しくなる場合もある。

イ 小1と中3の違い

異学年交流や縦割り活動などを行う場合、小1と中3では心身の発達に大きな差があるので、同じ活動をするためには配慮が必要となる。

ウ 小学校卒業の達成感が薄れる

義務教育学校の場合、小中で一つの学校になるため小学校を卒業するということなくなる。一貫校でも小中の距離感が近いと小学校卒業という実感が薄れる場合がある。

エ 他の学校との転出・転入に配慮が必要になる

通常の学校と異なるカリキュラムが組まれる場合は、転出・転入後に学習に支障をきたすことがないように学習内容や進度等について配慮する必要がある。

② 統合により集団が大きくなるメリットとデメリット

主なメリット

- ・ ダイナミックな教育活動の展開ができる。
- ・ 多様な学習活動が実施でき選択肢が広がる。
- ・ 人間関係の広がり和社会性の涵養が期待できる。

主なデメリット

- ・ 個に応じた学習指導が十分できないのではという不安がある。
- ・ 一人一人に目が届きにくくいじめ等が起こらないか心配がある。
- ・ 教育活動に小回りが利きにくい。

デメリットに対する対応

- ・ ICTのデータに基づく個に対応した継続指導
- ・ いじめ発見100%、解消100%でいじめゼロを目指す
- ・ ダイナミックな学習を最大限生かしながら、少人数の学習形態も工夫する。

4. 地域説明会の状況

(1) 開催日時と会場等

地域	開催日	出席者 総数	アンケー ト回答数	平均 出席者数
市内8地域	11/15- 12/8	163	152	20.4

説明会の参加者数

開催地域	楯岡	大倉	西郷	袖崎	大久保	富本	戸沢	大高根	計
開催日	11/24	11/22	11/29	11/17	12/8	12/1	12/6	11/15	
参加者数	19	19	22	14	28	15	19	27	163
地域内	13	12	18	12	22	11	14	23	
その他	6	7	4	2	6	4	5	4	

(2) 質疑応答の主な意見等

◆統合について

- ・より有意義な学習活動のためには一定以上の児童生徒数が必要であり、少ない人数では人間関係の固定化が心配されるので統合に賛成。
- ・中学校の人数減により部活動が難しくなっている。小学校では東部西部2校案が良いが、中学校は1校案でいいのでは。
- ・将来世代の財政負担が懸念されるので、既存の校舎を活用して早期に統合してほしい。
- ・少人数の良さもある。統合することだけが子供たちの教育に良いとは思えない。

◆教育について

- ・最先端の教育を目指し、かつ充実した教育力の高さによって教育移住したくなる学校を創ってほしい。

◆学童保育について

- ・認定こども園の友達と離れずに一緒に小学校で学ぶことができるようにしてほしい。
- ・学童保育の設置場所、内容や開所時間等も充分考慮してほしい。

◆地域について

- ・地域とのつながりを大事にし、「地元」愛や地域の「伝統」や「行事」等、地域の特色を取り入れてほしい。

◆校舎について

- ・障がいをもつ児童のことにも配慮してこれからの教育に適した校舎建築をしてほしい。

(3) 地域ごとの状況

楯岡地域 (19 名参加)

令和4年11月24日(木)

参加者構成 : 20~40代=33% 50~60代=28% 70代~=28% 無回答=11%

男性=76% 女性=24% 無回答=0%

統合について : 賛成=73% 反対=5% どちらともいえない=11% 無回答=11%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=47% 5~10年=41% 10年以上=0% 無回答=12%

【主な質問・意見等】

- 子供たちの意見などを聞くアンケートは行ったか、また今後行う予定はあるか。児童数の減少について、東部と西部ではどのくらいの割合になるか。
- 誰に聞いてほしいのか対象者を考えて説明会を実施してほしい。夜開催だと出席が難しい人もいる。オンライン開催も考えられる。東部と西部で制度が違うのはどうしてか。
- コミュニティスクールとはどのような制度か。
- 提案の方向性はいいと思う。今後、いろいろな意見を参考により良い計画にしてほしい。将来像より、もっと大切なことは、若い人たちが村山市に住み続けたいと思うようにすることと考える。
- これまで終了した他地域の説明会ではどんな質問が出たか。明確に反対という声はないようなので、これからはいろいろと意見を聞いて進めてほしい。

西郷地域 (22 名参加)

令和4年11月29日(火)

参加者構成 : 20~40代=57% 50~60代=14% 70代~=24% 無回答=5%

男性=86% 女性=14% 無回答=0%

統合について : 賛成=80% 反対=10% どちらともいえない=10% 無回答=0%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=39% 5~10年=33% 10年以上=14% 無回答=14%

【主な質問・意見等】

- 楯小駐車場は保護者人数からして大丈夫か。西郷夏休みプールができない。来年度から考慮してもらいたい。プールだけでも先行して修繕するなどしてほしい。
- 今ある学校の活用はどうなっていくのか。
- 学童と児童館の関係はどのような方向で考えているのか。西と東、川を挟んで分けていいのか検討してほしい。
- 人口減少が進んでいるのを実感した。限られた人数で行事等を行うのは難しい。楯中統合の際に人が増えることにワクワクした。早く統合を進めてほしい。
- 校長をどこからか連れてくるとか、独特な取り組みなどを計画してほしい。こどもたちが後々面白い学校と思えるようにしていただきたい。
- 楯小は山があり、山崩れなどの不安がある。安心して安全なのが一番。場所は離れても、地域とのつながりを大事にほしい。
- 学校統合に関して興味関心がある。どのような意見が出たか公表をお願いしたい。

参加者構成 : 20～40代=13% 50～60代=56% 70代～=31% 無回答=0%
 男性=87% 女性=13% 無回答=0%

統合について : 賛成=81% 反対=6% どちらともいえない=13% 無回答=0%
 ※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=57% 5～10年=31% 10年以上=6% 無回答=6%

【主な質問・意見等】

- 新しい大久保小学校の校舎を使用することについては、どう考えているか。新校舎建設費用の心配もあるが、よりよい教育環境で学んでほしいという願いもある。
- 現在の進め方では2校案で進めているようであるが、児童生徒数の減少を考えると1校案でもいいような気もするが、1校案ということにはならなかったのか。
- 学校を統合する際に、移住をしたくなるような観点も大切。
- 小学校より中学校が心配。人数減により部活動が難しくなっている。小学校は2校でいいが、中学校は1校でいいのではないか。葉山中に小学校を入れるなどの案もあろう。
- 市内小学校から市外の中学校へ進学している生徒はどれくらいいるか。

参加者構成 : 20～40代=43% 50～60代=29% 70代～=21% 無回答=7%
 男性=79% 女性=21% 無回答=0%

統合について : 賛成=57% 反対=7% どちらともいえない=21% 無回答=14%
 ※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=43% 5～10年=14% 10年以上=0% 無回答=43%

【主な質問・意見等】

- 「可能な限り早期に、地域の合意のとれたところから」とあるが、合意はどのような方法でとることを考えているか。また、幼児教育の充実も必要で、学童保育も含めた形で検討していただきたい。
- 障害児のことにも配慮して校舎建築をしてほしい。
- 「将来の小学校の在り方検討委員会」やアンケートなどで、他の人の多様な意見があることを知ってもらうことも必要なので、こういう場で配布するといい。
- 小中でタテ・ヨコのつながりを重視するとあるが、どのようなことか、また「クオリティの高い」「一歩先を行くとある」が具体的にはどのようなことか。
- 構想なので一定の目標が必要なのではないか。「ピカイチ英語力」「学力ナンバーワン」とは、どこを目標としているのか。
- 統合後の姿として「いいところを取り入れて」とあるが、他でやっていないことをする必要はなく、他の市町村のまねでもいいのではないか。

参加者構成 : 20～40代=42% 50～60代=35% 70代～=23% 無回答=0%

男性=100% 女性=0% 無回答=0%

統合について : 賛成=88% 反対=4% どちらともいえない=8% 無回答=0%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=50% 5～10年=35% 10年以上=4% 無回答=12%

【主な質問・意見等】

- 今月に合意が得られたと仮定したとき、最短でいつ開校するのか。
- 合意が得られた地域から統合なのか、一気に4つが1つになるのかどっちなのか。
- 長期的な視点で統合を考えたときに1校にまとめるという考えも出てくるのではないか。学童保育施設の設置についても様々な可能性を考えていただきたい。
- 最先端の教育を目指して、教育の充実をよく考えてほしい。教育に対して十分な財源を確保してほしい。
- 合意を取る上で単純な多数決というわけではなく、年齢層や立場を考慮した意見の集約をお願いしたい。
- 現状として他市町村の学校に通わせている家庭も多い。都会の学校に行ってしまったきり帰ってこなくなってしまう。山形大学に入学する人も今は23%に減ってしまっている。子どもの教育を考えたときに統合は早い方がいいと考えている。
- 教育の良さ、教育力の高さによって人を呼び込めるような学校をつくってほしい。

参加者構成 : 20～40代=54% 50～60代=20% 70代～=13% 無回答=13%

男性=67% 女性=33% 無回答=0%

統合について : 賛成=67% 反対=0% どちらともいえない=13% 無回答=20%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期 : 5年以内=60% 5～10年=13% 10年以上=0% 無回答=27%

【主な質問・意見等】

- 合意が得られたとする判断基準は何か。
- 2校案を軸に考えている理由はあるのか。
- 戸沢の子ども園に通わせているため、小学校に上がったときに分かれて人数が減ってしまうことが気がかりである。
- 特区を申請するのはどのような手順で行われるのか。
- 他市町村の事例も参考にしながら、早く統合を進めてほしい。視察をしてきた事例についても市民の方に紹介してもいいのではないか。
- 戸沢小や大久保小を使ってできる限り早期にお願いしたい。
- 反対している理由の大きなものは何か把握しているか。学校が中心になって地域ができていくという認識を持っているか。

参加者構成：20～40代=59% 50～60代=41% 70代～=0% 無回答=0%

男性=71% 女性=29% 無回答=0%

統合について：賛成=82% 反対=0% どちらともいえない=18% 無回答=0%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期：5年以内=41% 5～10年=47% 10年以上=0% 無回答=12%

【主な質問・意見等】

- 学童保育について、放課後のみならず、早朝もやってほしい。中学校で、カリキュラムを先取りしたりするのは、他市町村からの転校があったときに学習の進度に違いがでてきてしまうので難しいのではないかな。
- 新しい校舎を新築するのではなく、既存の校舎を使う案もいい。午後や放課後に体験活動や運動教育を行い学力とともに身体能力の育成にも力を入れてほしい。
- 統合に賛成。部活などを考えたときに人数が多い方がいいと思うので、統合するべきだと感じている。
- 統合に対して、しっかり住民のコンセンサスをとって適正な判断で進めていけるようお願いしたい。地域の衰退も考慮した上で、地域ごとの教育資源をうまく活用してもらいたい。
- 通学の便利さというのもポイントなので、バス運用の問題等を考えていってほしい。科目を融合させて総合的に考える力をつけるというようなこともユニークな学校作りにおいて大事な観点になってくるのではないかな。

参加者構成：20～40代=38% 50～60代=31% 70代～=23% 無回答=8%

男性=62% 女性=38% 無回答=0%

統合について：賛成=88% 反対=0% どちらともいえない=4% 無回答=8%

※賛成=賛成とどちらかといえば賛成を合わせた数値、反対も同様

統合の時期：5年以内=46% 5～10年=42% 10年以上=0% 無回答=12%

【主な質問・意見等】

- 西部地区の校舎利用に関して小中一貫の義務教育学校になった場合、葉山中学校の空いているクラスを使うというのはいかがでしょうか。
- 1校にしたらいいのではないかと考える。義務教育学校という案に賛成。葉山中の周辺に新しい小学校ができるのが理想だと思う。
- 地域を大事にしている子どもたちが育っていることを実感している。村山市の教育のおかげだと思っている。人口減少のグラフを見て保育所に関しても、同じように統合を考えていかなければならないと感じた。
- 部活動について極端に人数の少ない学校があることで、やりたくてもできない子どもが出てきてしまうのではないかなという心配がある。部活動の人数などに関しても今後検討していってほしい。

(4) 参加者アンケートの概要

アンケート回答者

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
回答数	5	35	25	27	21	29	3	7

152

性別

性別	男	女	計
回答数	120	32	152

質問

(Q3) 学校の統合についてはどう考えてますか

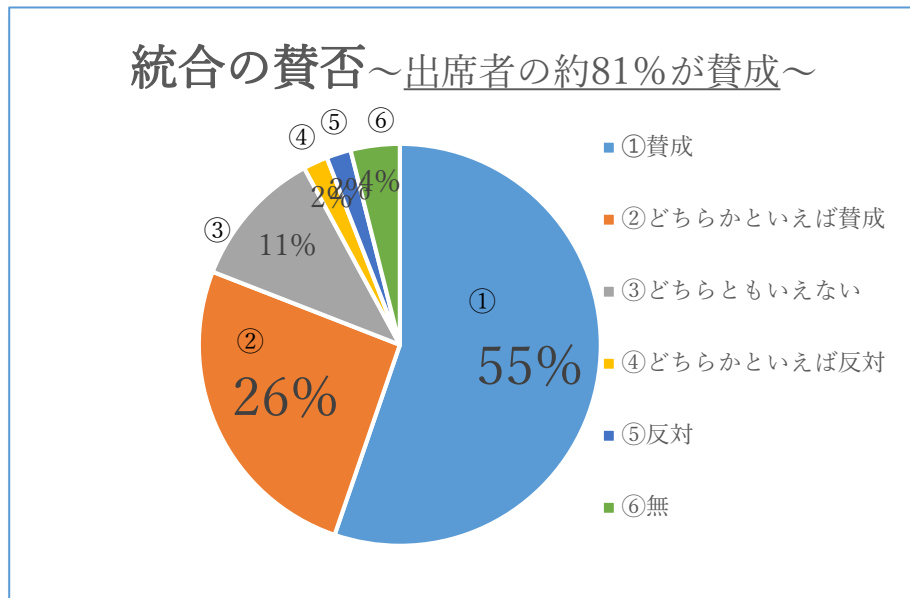
①賛成	84
②どちらかといえば賛成	39
③どちらともいえない	17
④どちらかといえば反対	3
⑤反対	3
⑥無	6

(Q4) 統合の時期としてはいつがいいですか？

①5年以内	72
②5～10年	51
③10年以上	5
④無	24

152

152



アンケート結果

参加者 163 人のうち 152 人から回答をいただきました。統合については、賛成 55%、どちらかといえば賛成 26%。約八割が賛成でした。特に子育て世代は早期統合を望んでいる傾向にありました。

【アンケート自由記述欄の主な内容】

- ・ 1クラス 25 人規模にすることは賛成。クラス数は2クラス以上になるように調整していただきたい。(袖崎)
- ・ より有意義な学習活動のためには一定以上の児童生徒数が必要。統合は必然。一方で、自分の「地元」「ふるさと」といった意識づくりが大切である。(楯岡)
- ・ 地区民としてはできる限り小学校を残してほしい。元気な子供達の声を聞きたい。時代の流れで仕方ないか。(戸沢)
- ・ 少人数学校としての良さもあると思われ、地域とのかかわりも含めて、統合することだけが、子供たちの教育に良いとは思えない。(袖崎)
- ・ 早く統合をお願いします。(冨本)
- ・ 市内に2校は必須。極力早く統合を望みます。(戸沢)
- ・ 他県、他地域から教育移住が増えるような魅力ある新しい小学校を東西に1校ずつ創っていただきたいと希望します。(大久保)
- ・ 「子供のため」を建前にした大人や社会の都合を優先する教育ではなく、子供の権利を尊重し、一人一人を大事にする教育であってほしい。(大倉)
- ・ 今の教育の方針としては賛成です。保護者として精一杯がんばりますので、先生方も同じ方向をむいて一緒になって様々取り組みましょう。(大久保)
- ・ 東と西の2学区を選べるというのもありかなと思うし、令和10年の子供の数を見ると、1校もありかなと。(大高根)
- ・ 学童のことも合わせて検討してほしい(送迎も含めて)。統合した後の学校施設の利活用も検討してほしい。(袖崎)
- ・ 児童館、学童保育、地域との円滑な接続も考慮した構想をお願いしたい。(西郷)
- ・ 村山市を1つの学区として、東部西部とも特色ある学校づくりを進めながら、希望する学校に進めるようにしてほしい。(楯岡)
- ・ 市内にプールがほしい(できたら屋内)。統合前から子供達の交流を積極的にしてほしい。(西郷)
- ・ フリースクールや発達に障がいをもった子供のための居場所づくりなども強化してほしい。(冨本)
- ・ 「4つの小学校から1つの中学校に」というとスクールカースト的な固定化をリセットして打破できる可能性が高まって、個人の成長につながるケースが多いのだが、9年間一緒となると、なかなか人間関係の固定化が崩せなくなるという不安がある。そういう状態があることを認識した上で子供たちのきめ細やかな指導に当たってほしい。(戸沢)
- ・ 理系教育の充実。発見学習、探索学習の実施。子供の興味を引き出すような教育を。(大久保)
- ・ 義務教育学校になり指導内容が中学校へ先送りとなった場合、東桜学館に入学を考えていた時に、小学校では十分な教育ができなくなるのではないかと心配。(大高根)
- ・ いろいろな要求がある教育界。子供も教師も忙しい。そんな中で「村山の子供たちは〇〇だ」と言われるような「シン」が欲しい。(大倉)

(5) 地域説明会の考察

【参加者の年代】 年代別割合は、20～40代が43%、50～60代が32%、70代以上が21%であり、いわゆる子育て世代が一番多くなっている。男女別では地域による違いはあるが、全体では男性79%、女性21%となっている。

【統合への賛否】 各地域の質疑応答の中では明確な反対意見はなく、前述のアンケートからも約8割の方から賛成との回答であった。今後の人数減少を考え多様な教育活動を展開するためには統合が必要と考える方、多くの人数の中で社会性を育みたいと考える方、新しい教育へ期待する方の考えを多く聞くことができた。一方、「地区民としてはできる限り小学校を残してほしいが、時代の流れで仕方ないか。」「少人数学校としての良さもあると思われ、地域とのかかわりも含めて、統合することだけが子供たちの教育に良いとは思えない。」との意見もいただいている。これらも踏まえながら検討を進めていく必要があると考える。

【統合の規模】 地域づくりの観点を含め両中学校区に1校ずつの統合小学校という2校案に賛成の意見が多かった。少数ではあるが、今後の人数減少を考えた場合1校でいいのではないかという意見も見られた。

【統合の時期】 説明会において早い時期の統合を望む声が多く聞かれ、アンケートでも今後5年以内が47%、5～10年が34%、10年以上が3%で早期の統合を望む声が多く、その傾向は葉山中学校区がやや強く、それぞれ49%、36%、1%となっている。現在ある学校に統合してでもできるだけ早い時期を希望するという意見もあった。

【関連事項】 学童保育についての意見・要望が複数あった。子供の通学は保護者の勤務形態や通勤状況などに関係するので、学童保育についても関係機関と連携してより良い方向を探る必要があると考える。

学校の駐車場やプールなどの周辺整備についての要望もあったので、関係各課と相談して対応を考える必要がある。また、学校施設の閉校後の利活用についても質問が出されたので、各地域の要望を聞きながら対応を考えていく必要がある。

統合後の新しい教育や人数が多くなることに対する期待と不安の声も多く聞かれた。「未来スクール構想会議」で話し合われたことをもとに今後設置される「統合計画策定委員会・ワーキンググループ」において具体的な教育体制や教育カリキュラムなどを検討していただく予定なので、地域説明会でいただいたご意見や何らかの形で子供たちの考えも取り入れながら、よりよい計画にしていく必要がある。そして、丁寧に説明していくことで不安を少しでも小さくしていくことが大切であると考え。

5. おわりに

令和5年度には「統合計画策定委員会」を設置し、より具体的に教育内容や教育環境、施設の在り方などについて検討してまいります。

大切にしたいことは、これからの村山市を担う子供たちを中心に据え、より質の高い村山らしい教育の実現のために何をどうすればいいかを幅広く議論し、しっかりした計画を策定していくことです。村山市が誇る高い学力をこれからの社会のニーズに合わせてさらに向上させ、ふるさと村山で自然や芸術文化・歴史などの豊かな体験を通して、基盤となるしなやかで温かい心を育てていくための議論を活発にしていきたいと考えております。

検討委員会や地域の皆様からいただいたご意見等を「統合計画策定委員会」に確実に引き継ぎ、子供たちにとってよりよい計画が策定されるようにしてまいります。

「村山市小中未来スクール構想会議」及び「地域説明会」報告書

発行日：令和5年3月31日

発行：村山市教育委員会

担当：村山市教育委員会

(事務局) 学校教育課庶務係

〒995-8666

山形県村山市中央一丁目3番6号

☎0237-55-2111